

Title	日本の介護分野における国際貢献への道： 人材確保と介護技術の移転を両立させる外国人材のマネジメント・モデルの検討
Sub Title	
Author	胡, 映蝶(Hu, Yidie) 後藤, 励(Gotō, Rei)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2018
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2018年度経営学 第3469号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002018-3469

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文題名

日本の介護分野における国際貢献への道
—人材確保と介護技術の移転を両立させる外国人材のマネジメント・モデルの検討—

主 査	後藤 励
副 査	田中 滋 慶應義塾大学 名誉教授
副 査	中村 洋
副 査	大藪 毅

氏 名	胡 映蝶（フ イディエ）
-----	--------------

論文要旨

所属ゼミ	後藤研究会	氏名	胡映蝶（フイディエ）
(論文題名) 日本の介護分野における国際貢献への道 ―人材確保と介護技術の移転を両立させる外国人材のマネジメント・モデルの検討―			
(内容の要旨) 日本では近年、急速な少子高齢化によって介護サービスの需要が急増している。団塊の世代が後期高齢者に達する 2025 年には、37.7 万人の介護人材の不足が予測されており（厚生労働省, 2015）、今後、介護人材をいかにして確保するかが深刻な問題となっている。こうした背景から、日本では二国間経済連携協定（EPA：Economic Partnership Agreement）に基づき、2008 年 7 月から 2017 年 10 月までの間に、インドネシア、フィリピン、ベトナムから、計 3529 人の外国人介護福祉士候補者の受け入れを行ってきた。しかし、受け入れを行った候補者のうち、およそ 4 割に相当する 1423 人（2017 年 10 月時点）が、早々に帰国する結果となった（厚生労働省, 2017）。 職場や生活における葛藤は、生産性の低下を招くだけでなく、勤務の継続を困難とすることが報告されており、介護人材の不足解消のためには、外国人介護人材が活躍できる環境整備が急務となっている。 前述の背景・課題を踏まえて、本研究では日本の施設型介護事業者を対象に、日本の介護人材不足を解消すること、日本の高い介護技術を海外へ展開することで、国際貢献を行うことを目的とし、外国人介護人材の活躍に影響する要因を調査した上で、外国人介護人材の活躍促進に向けたマネジメントモデルを提案する。 調査対象として、介護事業所と外国人介護職員に分けて、それぞれ個別インタビューを実施した上、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）を用いてインタビューデータの分析を行い、外国人介護人材の活躍に影響する要因を明確にする。 最後に、分析結果を踏まえて、外国人材を受け入れる際に、サービスの質と量の確保に向けた労働生産性を焦点に当たって、職場多文化化への環境整備、外国人介護職員向けのキャリアパス、効率的な日本語学習について提案した。			